

# 平成28年度第1回八雲町総合教育会議記録（要旨）

平成28年4月25日（月）

## ◎会議日程

- 1 開会
- 2 町長あいさつ
- 3 議事録署名委員の指名
- 4 議題  
協議・調整事項  
(1) 平成28年度教育施策に関する意見交換
- 5 その他
- 6 閉会

## ◎出席者

町長	岩村克詔
教育長	田中了治
委員	宮田千秋
委員	松永正実
委員	羽田圭吾
委員	藤内智子

## ◎説明員・事務局

説明員・事務局	荻本和男（学校教育課長）
説明員	本庄伯幸（学校教育課参事）
説明員	足立直人（社会教育課長）
説明員	浅井敏彦（体育課長）
説明員	小栗由美子（給食センター長）
説明員	野口義人（教育事務所長）
事務局	佐々木裕一（学校教育課補佐）
事務局	松浦真理子（学校教育課総務係長）

【開会 午前10時00分】

### ◎会議日程1 開会

○学校教育課長 只今から平成28年度第1回八雲町総合教育会議を開催します。

なお、この会議は議事録を作成し、ホームページなどで公表することとしておりますので、あらかじめご了承頂きたいと思っております。

開催にあたり岩村町長からご挨拶を申し上げます。

### ◎会議日程2 町長あいさつ

○町長 おはようございます。今日は、平成28年度第1回目の八雲町総合教育委員会議事ということで、4月1日から田中教育長を迎えて新体制ということで始まりました。

また、大変皆さまにはお忙しい中ご参集いただきまして厚く御礼申し上げるところでございます。

この八雲町の教育も大変な時期にかかっていると思っておりますし、また議員さんや町民からも学力の向上等もありますので皆さまと真剣に討議しながら、八雲町の教育を考え、進めて参りたいと思っております。

特にこの子どもの頃、小学生中学生は大きく影響を与えるものと思っておりますので、私も小学校の頃に先生の言われた「本をたくさん読め」という言葉により、小学校4年5年6年と、小さい学校ではありましたが本をたくさん読んで、学校の本を全て読んだというようなそういう経験もあり、本も大切だなと思っておりますので、その辺りも含めて子どもたちに伝えて参りたいと思っております。

そして、今皆さんも新聞報道で九州熊本での大地震災害がありまして私も心を深く痛めておりますし、同時に復旧が進むよう願っております。そう思いながらテレビを観て我に返った時、この公民館も大変古くなっているの、耐震化もここで進めていかなければならない時期に来ているのかなと改めて思うと同時に、役場も同じ時期なものですから行政の要、教育の要もあって、公民館・教育委員会を、考えていかなければならない時期と思っておりますので、この辺りも含めて皆さんのいろんな意見をいただきながら一緒に進めて参りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○学校教育課長 それでは、会議次第の3番目、議事録署名委員の指名以降町長の進行でよろしくお願いいたします。

### ◎会議日程3 議事録署名委員の指名

○町長 それでは、本日の議事録署名委員に松永正実委員を指名します。よろしくお願い申し上げます。

### ◎会議日程4 協議・調整事項(1)平成28年度教育施策に関する意見交換

○町長 それでは、すぐに議題に入ります。本日は、協議・調整事項として「平成28年

度の教育施策について」意見交換をして参りたいと思います。話題提供として、田中教育長からお願いいたします。

○教育長 只今、町長からご挨拶いただきましたけれども、この総合教育会議今年度第1回目ということで、あらためて私自身再確認する意味で、この制度について簡単に触れてみたいと思います。ご承知のように昨年4月1日の改正地方教育行政法の施行で教育委員会制度が変わり、いわゆる「新教育長」が誕生することとなりました。これまでは、議会で同意を得て任命された5名の教育委員の中から、教育委員会の代表である、教育委員長と具体的な事務執行の責任者、かつ事務局の指揮監督者としての教育長を任命しておりましたけれども、記憶に新しい、大津市の痛ましい事故の際の、教育委員会が迅速な対応ができなかったことなどが要因となって、これまでの制度の在り方を見直す契機となり、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行されたことによるものでありまして、八雲町におきましても、不肖私が、3月30日に、八雲町議会の同意をいただき、岩村町長から任命され、4月1日付けで新教育長を拝名いたしました。改めてよろしくをお願いいたします。

新地教行法では、総合教育会議の他、教育委員会のチェック機能の強化であるとか、透明性の確保、教育大綱の作成などが謳われておりますけれども、制度改正の趣旨を十分理解し、事務局職員一丸となって教育行政の執行にあたって参りたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

さて、各学校におきましては、入学式・始業式から約3週間ほど経過しまして、全ての学校を訪問致しましたが、それぞれに校長を中心としたいわゆる目的組織としての学校運営が円滑にスタートしたと受け止めているところです。

また、先般は、校長・教頭合同会議を開催し、教育行政執行方針の解説と各課の所管事項の説明を行い、学校と行政と連動した取組を推進するよう理解を求めたところでございます。

本町の喫緊の課題である「学力向上」対策につきましては、各学校の教育財産をすべての学校の共有財産としつつ、小・中学校の垣根を低くしまして、家庭、地域と連携した教育環境の醸成に力を入れ、実効ある取組を推進していきたいと考えております。

そのためには、校長・教頭の管理職研修はもとより、日々子どもたちと直接触れ合う、教職員の資質向上を重点課題として計画的かつ様々な機会を活用して啓発に努めて参りたいと考えています。

また、社会教育におきましても、各団体等の総会にすべて出席させていただきましたが、自主的・自立的に運営され、勢いのある活動を推進していると感じました。

生涯学習構築の基盤を更に確実とした活動となるよう支援に努めて参りたいと考えてお

りますので、1年間、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、「教育行政執行方針の分析から」という私なりに簡潔にまとめてみました。これを若干説明させていただいて、ご理解をさらに深めていただきたいと思います。

執行方針の初めに謳われています文言を枠組みにいたしました。町づくりは人づくりの観点に立って八雲町教育目標の具現化を目指して、「新八雲町総合計画」「第1期八雲町教育推進計画」を基盤とした諸施策を推進すると、このように謳われております。

しかしながらこの教育推進計画は、今年度で計画が終了するという形になっておりますけれども、道の計画また八雲町の計画を十分見据えて作成する必要があることから、これらに合わせまして1年先延ばしで平成30年から計画を新たに推進したいということで準備をしていきたいと考えています。

後、教育的な大きな課題として、二つ載せられておりました。29年度から熊石地域の小中学校の統合、そして新たに熊石小学校、熊石中学校としてスタートすること。2点目は、八雲町全中学校区において、段階的に小中一貫型コミュニティスクールを導入すること、今年度はこれらのものが充実したものとなるための土台づくりの年となるような認識を持っております。

続いて学校教育については、まずは学力の向上が最重要課題ということで、学校任せとすることではなくて、行政からも様々な提案をしていきたいと思っておりますし、連動した形でまさに学校と教育委員会が学校行政と機を一にした取組を行っていききたい、一貫徹底を図っていききたいという思いでいます。

ただしこの学力向上については、知識偏重に陥ることなく、私の思いは、2番の「豊かな心」の育成、3番「健康な体と体力の向上」この3本の柱をしっかりと据えて、それぞれが相乗効果を発揮してまさに生きる力の基盤となる確かな学力を身につけていく取組を推進していきたい、そのように考えています。

そしてこの4番目の「コミュニティスクール」の導入ということで、過日も先進的に進めていただいております落部小中の校長先生・教頭先生においでいただいてこれからの取組について協議を行ったところでございます。

冒頭のあいさつにも述べましたけれども、これまでの学校教育、学校の在り方というのは、小学校・中学校・高校とどうもこの枠組み、縛りが強くて小学校を終えたら後は中学校でやってくれ、中学校を終えて高校へ行ったら高校でやってくれという意識が強いとそういう思いを感じていますし、現に小学校の先生が中学校の先生の名前を知らないと言う方が多いと、逆に中学校の先生が小学校の先生の名前を知らない、人となりもよくわからないという状況では、一貫した教育はできないよ、とそういう話をしながらなるべくまず教師間の交流を深めてそしてできれば小学校の先生は中学校の生徒の名前を全員覚えてくれと中学校の先生も小学校の子どもたちの名前を全員覚えて、グラウンドの共有ですからそういう活動の場面では、声掛けを多くして、中学校に向かう小学生のいわゆる中一ギャップなどの不安の解消にも大きいからそういう取組を継続してほしいというお話をさせて

いただきました。

順次これから協議を重ねて円滑な導入ができるように支援していきたい、このように考えています。

それから 5 番目熊石地域学校統合の確実な推進。明後日も準備委員会の会議が熊石でもたれます。私初めて参加する会議なんですけれども、これまでの取組も十分伺いながら子どもたちが不安なく、新しい学校に通えるようにまた保護者地域も安心して預けられる学校となるようにそういう準備に抜かりないよう支援していきたいと考えています。

次の頁です。学校安全、これについては、様々な日本の国の被害、今回も熊本でありましたけれどもあらためて防災教育の一層の充実について、共通理解を図っていききたいと思っています。

特別支援教育については、障害者差別解消法というのが出されまして更に個々のニーズに応じた適切な指導・支援を充実するということになっています。そのため、これまで行っていますように、一人ひとりの個別の支援計画、これは、保護者と十分話し合いを持って、どういう子どもに育てていくかという、そういう学校と保護者と一致した連携した中での計画をしっかりと作成しながらも、なかなか小学校中学校にもこの支援が必要なお子さんがいますので、八雲養護先生方の協力をいただく、また今回八雲高校の校長になられました飯森校長先生は長く特別支援学校に関わってきた方ですので、本人の方から先生方の研修等ありましたらいつでも活用して下さいというお声もいただいております。

また、函館養護の校長先生、それから五稜郭養護の校長先生も私が白樺高等養護学校というところで 1 年校長を勤めたんですけれども、その時の教頭先生、教務主任が校長できておりますので、「いつでも協力いたします。」という声もいただいております。こうした方々の協力をいただきながら八雲町の特別支援教育を更に充実したものにしたいという考えです。

学校給食については、5 月 19 日北海道学校給食研究協議会の共同調理部の部会が八雲を会場にして行われます。

これには、北海道給食会の理事長等も来られて、二日間総会研修会等を持たれるということになっています。これらを契機にして、更に安心安全な給食の提供ということについて、学習しながら理解を深めていきたい。何よりも我々はもとより子どもの身体も食でつくられるわけですから、健康な体のみならず、心にも大きく影響する食の在り方について、更に研究していきたいと考えています。

教育環境につきましては、既に八雲中学校の屋内運動場の改築が進められておりますし、以下そこに書かれているような整備に努めていきたいと考えています。

幼稚園教育、道立学校との連携、八雲町は私立の幼稚園のみということですが、八雲幼稚園の入園式に私も出向いて参りました。私も 1 年半ですね、全道の幼稚園教育も担当しまして全道各地の幼稚園教育回って参りました。それまでは小学校の経験しかありませんでしたから、教育者として何十年も関わってきたながら幼稚園教育に驚くことがたく

さんありました。是非小学校の先生方に、幼稚園教育の重要さを認識する意味でこの一貫教育がうまく進んだならば、幼稚園教育も中に取りこんで、リンクしたいと考えています。簡単に例えば、小学校、中学校もそうですね、廊下の掲示黒板というのは、同じ高さに設置されています。いつも思うのは、1年生であろうが6年生であろうが高さは同じ。この黒板の設定は、大人の、先生のためのものではないかなと思っている。その点幼稚園は、幼稚園の子どもの目線90センチの視差と言われていて、90センチの形状をすごく大事にしていたり、それから幼稚園の先生は大事な話をする時には膝を折って目を合わせてお話しするという、そういう教育の在り方は、小学校に非常に大事なんですね。そういうこととか、幼稚園はお片付けってというのがあって、活動した後必ず自分たちでお片付けするんですけども、活動がすごくうまくいったとか元気いっぱいできたって子はお片付けも積極的にやりますし、まだ遊びたい、うまくいかない人はブラブラする、そういうことを学んで小学校に入ってきて、小学校に行ってみたら入門期、お兄さん学級が子どもを早く返して掃除をしていたりという場面たくさんあります。せっきやく幼稚園で身についた力が小学校でないがしろにされるという教育もいくつもあります。そういう解消に向けて幼稚園も大事に取り組んでいきたいと考えています。

道立学校、これに関しては八雲高校がありますから、是非大事にして、先般も道立高校の推進の在り方について局で会議がありましたけれども、それを聞く限りでは、八雲高校は当面心配いらない学校だなという感じをもっています。

社会教育につきましては、ここの社会教育の組織の多さは大変驚きました。それぞれ活力ある取組をされている、そういう感じもしましたし、いい意味で八雲と落部がライバルになってすごい勢いあるなってそういう感じもいたしました。学校の先生方は、子どもたちに教育をするというだけでなく、地域の文化の啓発にも関わると言う使命があります。みましたら、校長・教頭先生がほとんどなんですけども、様々な組織に加わっていただいて大変夜遅くまで会議に入ったりですね、苦勞いただいていますけれども、これも全て子どもたちに関わることでですから、労をねぎらいながら継続して活動していただくようお願いしているところです。

以下社会教育関係団体の活動の支援であるとか日本古来の文化の伝承、八雲の芸術文化活動の振興について、これも積極的に進められておりますので、これらについても支援していきたいと考えています。また、文化財たくさんあります。これらの保護とともに子どもたちにもふるさと教育という一環で様々な八雲の文化財であるとか八雲の歴史、伝統について学んでいただくようにこの方にも強く声掛けしていきたいと思っています。

それから各種社会教育施設の運営について、これにつきましては先ほど町長の挨拶にもありました。この読書の大切さ、小さい時から本に触れるという、これは非常に大事だと思います。こっちへ来てからテレビでみたんですけどもアグネスチャンという方、あの方変わった子育てをしたというので、芸能界から相当批判をもらったと、つまり自分の仕事場に赤ちゃんを連れて行って、自分が出るまで関わって、そういうことを周りの方々

が好ましく思わないで、随分責められたんだそうです。ところが、三人のお子さんはすべて全世界の大学のランクありますね、そのトップの大学に三人合格しているという、それでどういう教育をしている？と聞きましたら読書に尽きますというお話をしていました。小さい時から本に関わらせる、それが功を奏したのではないかと思うことが立証されていました。あの熊石、それから八雲の子どもたち、学力の発奮をしながら日常どういう教育活動をしているかとみたときに、全くやっていないわけではありませんが、週の二日は朝読書、残りは基礎学習というふうな、一貫していない取組をされているなと感じました。また、子どもたちの読書活動についても、積極的でないと言うふうな印象も持ちました。なんとかこの八雲の子どもたちに本好きにさせる、そういうことで図書館もみせてもらいました。すばらしい図書館で、私の家内も昨日も1日居てもいいわって、気がついたら五時になったんで終わりますってだされちゃったとかって言うんですけども、最新の本があるんですね。今朝、道新に載っていた京都在住の方が函館の良さを、感動した函館に住んで書かれたこの本もあったんですというそういう話をしていました。読書だけってことにはならないけれどもスポーツも一生懸命やっているようです。そして本にも関わろうと。また、あそこには若くして亡くなられた柳谷友太さんの文庫もありました。あの方も陸上ですか。一生懸命されていたけれども、子どもたちには、スポーツだけでなく本も読むんだよということから親御さんが今でも図書ですね。寄贈されて文庫も維持されているというお話もしながら、もちろん学校にもたくさん本がありますけれども、図書館に出向いて、たまたま触れ合いをしてほしい、そのように思っています。

最後は、社会体育・スポーツ関係です。これもスポーツの少年団の総会の時でしょうか。団長さんから聞いた話でこれまで八雲のスポーツマン、全国優勝が5人います。という紹介されていました。陸上がほとんどのようでありましたけれども、他のスポーツからも全国で優勝するような力をつけてほしいという声出されておりました。この地域のスポーツ文化の啓発についてもなんとか学校の先生方も大いに参加して地域と一体となって活動してくれればいいなとそういう思いもしていますし、私自身も好きなので、暇な時は体育館に出向いたり町のスポーツ・イベントに参加したい。そういう思いでもあります。

これは私がつくった行政執行方針ではないんですけれども、教育委員さん方も作成には、十分お声いただいているものだと思います。私なりにこのように解釈して進めたい。そういう思いでするので、この後忌憚のない意見をいただきながら、修正するところは修正して進めていきたい。そのように考えておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

○町長 ありがとうございます。

只今、教育長から説明のあった今年度の教育行政方針の内容を含めて、意見交換を進めて参りたいと思います。委員の皆さんから発言をお願いいたします。

○宮田委員 町長。

○町長 宮田委員。

○宮田委員 只今教育長から、4月27日に統合のための準備委員会が開催されます。田中

教育長は、初めての出席となると思いますが、去年の4月に第1回総合教育会議がここで開催されましたけれども、その時に私から統合に伴う施設等の整備ということで、プールについてどうでしょうかと町長にお願いをして、その時は町長も快諾してくださり、すぐに担当職員に検討させるよう指示があったのですが、その後教育委員会議の中でも、4コースになりそうですとか場所はだいたいこの辺ですとか金額的なものとか提示されましたけれども、その後今回の定例議会の中でも提案されませんでした。

それで、この辺りが延びる状態なのかそれとも設備として認められないのか、その辺りを確認したいという思いでいます。

それと、27日の会議の中では、たぶんその辺りの質問も出るかもしれませんが、ある程度の考え方というか方針というかそういうものを持っていたほうがいいという感じがします。

6校を2校にするということは大変なことだと思うので、それを何事もなくうまくいったよということは、その辺りの話を前教育長から持っていたという話も聞きますし、それは私の中では定かでないのですが、そういう噂は聞いています。

今一度、町長からその辺りのお話を聞けたらと思います。

○町長 今のプールの件であります、これについては地域からも聞いております。これはあくまでも小中学校の統廃合とは少し別な話になります。始まりとしては、統廃合ですが、やはり熊石高校の廃校があって、熊石地域の学校は熊石高校のプールを借りて授業をやってきたという経緯で、それと同時に小中学校の統廃合が必要になってきたということで、少しだぶってはいますけれども、このプールが必要ということは、私も認識していますし、6校が2校ということもあるけれども熊石高校のプールが使えないということが大きな原因だろうと思います。

そして今、このプールを進めないということではなく、やはり進めなければならないという気持ちはあります。ただ、学校も教育関係の補助やその施設に対しての考え方は、今特に耐震化の方に進んでいるということで、なかなか補助金申請しても難しいということもあります。

今年初めて、小学校は乙部町のプールを利用するということもありますので、その辺りも踏まえながら進めて参りたいと思います。ただ、時期的なものについては、今言った補助金等々もありますので、それをにらみながら進めていきたいという思いであります。

○宮田委員 私もぜひ必要だと思いますので、前向きに検討するようお願いします。

○教育長 町長。

○町長 教育長。

○教育長 学校教育からもお伝えします。このプールについては、私もお話を伺いました。そうした中で、建物ありきではなくて、子どもたちはどうなのかということで、熊石の学校については、学校訪問の時に学校の状況を聞いてきました。その結果、小学校については、乙部町のプールを借りて授業を継続するという、それから熊石第二中学校につい



ても乙部町のプールを借りて、水泳の授業を継続するという回答です。ただ、熊石第一中学校については、今年度実技は実施しないということです。その背景を伺ったんですけれども、昨年度までは水泳授業は2時間続きで3回6時間行ったということです。この水泳指導は、中学1年、2年は、必修なんですね。必ず行わなければならない。ただし、必ず実技を伴うものでもない。ですから、教室での座学ということでも可能なわけですけれども、そうした中で6時間行ったということです。

今年度、乙部町のプールを利用しないといいますか実技を行わない要因として、1つは熊石第一中からバスの移動時間が長いという時間的なロスが大きいこと、もうひとつ、これが大きなネックだなと思いましたが、体育指導教諭がいないということです。そうであれば、近くにプールがあってもこれは難しいなという感じもしました。やはり、水泳指導というものは危険を伴うものですし、入念な指導をしていく必要があります。その時に体育指導教員がいないということは、無理だということをお伺いしました。

○町長 よろしいでしょうか。

○宮田委員 町長。

○町長 宮田委員。

○宮田委員 27日の会議では、その内容についての説明もどうかよろしくお願いします。

○町長 このプールの件に関して、他の委員はよろしいでしょうか。

「なし」という声あり。

○町長 それでは他にございませんか。

○羽田委員 町長。

○町長 羽田委員。

○羽田委員 学校教育の健康な体と体力の向上なんですけど、ピロリ菌の継続実施と新たに小学校でのフッ化物洗口実施ということで書かれています。

先日、渡島保健所の歯科医師、また実施されます学校の先生方と学校歯科医と集まりまして、この話の説明会が行われました。その中で、一部ご理解をいただけていない教職員の方がいらっしゃいまして、非常に生徒側の立場に立って、実施するかの善し悪しではなくて、生徒側の実施されることでの子供たちの安全というところに対して、非常に懸念されておりました。

医学的な知識があるかどうかはさて置いて、そういった実施される先生方に、フッ化物洗口の理解を深める何か方策というものを考えていただきたいと思います。

一部、やはり安全性が確保されていないんじゃないかと非常に強い意見が数名の先生から出されていました。

私たち歯科医師からすると、フッ化物洗口による虫歯の抑制というものは非常に有効性が高いということは、我々も学校も現場も理解しておりますけれども、この件に関してはやはり学校の先生ということでそういう知識もないということで、それに対して理解を深めていく何か行政側からの対策というものもあれば、より円滑にフッ化物洗口も進み、効

果が得られるのではないかと思います。

もう1点、よろしいでしょうか。

次のページなんですけれども、教育環境の整備ということで、産業後継者の育成を目的とした農業、漁業、商工業後継者に対する養成奨学費補助はあるんですけれども、八雲町はやはり福祉、医療就業に対する子どもたちへの支援もこれからの時代本当に大切になってくると思います。ピアハウスや特養などにこれから従事する方々や医療に就業する看護師や各検査技師等コア医療にこれから従事する方々にそういったことも、今期ではなく将来的に対応・対策・補助できるように環境整備できるのか、何か資金がないからできないのかを付したいと思います。

○教育長 町長。

○町長 教育長。

○教育長 フッ化物洗口にかかわって、導入時は現場から大変な猛反対を頂きました。その要因として、安全面と養護教諭の業務負担増が大きな柱だったんですけれども、しかしながら、各地の子どもたちの歯の状況を調べていくと、私がかつて居た地域でも非常に虫歯が多くて、この予防対策をどう進めていくか話し合いながら単なる食後の歯磨きのみならず、こういう効果があるのですよと説明をして最終的には導入に踏み切りました。実際に導入してしまえば、理解を得て一生懸命やってくれています。

また一部保護者もなかなかこれに賛同できないという方もいました。そういうお子さんについては、水だけでみんなと一緒にブクブクのうがいで済ますということをしていました。

八雲はこれから取り組む学校もあるようですので、それについて抵抗を示す学校や教員が居るようであれば、今後も対応しながら円滑に導入できるように対応していくよう考えております。

○羽田委員 町長。

○町長 羽田委員。

○羽田委員 フッ化物洗口は、私からすると当然虫歯の抑制に有効性が高い予防処置だと思いますし、子どもの虫歯が減っていくと健康の向上と学力の向上にもつながっていきまますし、口腔内の健康は間接的に食生活の改善にもつながっていくと思いますので是非お願いしたいと思います。

○教育長 町長。

○町長 教育長。

○教育長 もしも、そういうことについて研修する場を設定した場合には羽田委員のお力も借りたいと思いますがよろしいでしょうか。

○羽田委員 そういう機会がありましたら、私も含め学校歯科医全体で対応させていただきます。

○町長 二つ目の質問についてお答えします。

奨学金ですが、内部的には大きく言いますと非常に八雲町に足りないのは、医師・看護師といった病院関係に従事する方々、そして保育関係の職員、社会福祉士・介護福祉士とこのように病院・住民生活課・保健福祉課と三課に分かれていますので、昨年度も協議しましたが、八雲町にとってどういう形が一番いいのか今年度も引き続き協議していきます。財政面についてはそんなに大きな問題ではないと思いますが、ただ保育士も足りませんが町立保育園が一か所もないので、奨学金の補助はしても一人も八雲町に就職できない状況であったり、介護士の方々も各町内施設と協力体制がなければ難しいということもありますので、その辺りも含めて内部で協議しながらまた各関係機関と協議を進めていきたいと思っておりますので、ご理解頂きたいと思っております。よろしいでしょうか。

○羽田委員 はい。

○町長 他にございませんか。

○藤内委員 町長。

○町長 藤内委員。

○藤内委員 先ほど教育長の説明の中で、学校教育で学力向上を八雲町の最重要課題にしていただきありがたく思っています。その中でも読書については、私も賛同するのですが、教育行政方針の2頁目の7の道立学校との連携ですが、八雲には八雲高校という道立高校があるのですが、教育長は先ほどの説明で将来まだ安定だとおっしゃっていましたが、今の八雲町の中学生の受験生の人数を考えると、私は本当に真剣に取り組まないと八雲だけでなく、森・長万部といった函館以外の道南の高校がなくなっていくのではないかとこのことで危惧を感じています。

その中で八雲高校でも魅力ある学校づくりということで陸上で全国大会へ出場したり、色々なところで学力向上だったり努力していると思うのですが、まず私が受験生の保護者や本人に聞いたところで気になったのは二点あります。

一つは、まず美術専攻がないということです。以前五クラスあったときは、美術の先生もいたらしいのですが、今八雲高校は専攻が音楽しかありませんよね。もう少し人数が多い学校ですと専攻が音楽・美術・書道なんかがあったと思うのですが、実際地域の八雲高校に入学したいけれど、将来美大に行きたいとか美大ではなくても今美術関係の職業たくさんありますよね。そういうことを考えたときにやはり高校で美術の授業がないので、ちょっと八雲高校はという中三の保護者や本人の声をここ数年聞いているので、例えば実際問題八雲高校で美術の先生を置くことは人数的に不可能だと思うんです。音楽と美術と言ったら音楽を専攻する人数の方が多いと思うんです。それであれば、何とか長万部・森・檜山北高など今金町との4町合同の取組もありますし、何とか道南の道立高校と連携して、例えば曜日ごとで学校を決めて週1回美術の授業を行うなど美術専任の教員の共有ができないのかということと、総合ビジネス科の人数が非常に少ないですけども、以前から看護科という話もあるのですが、町長からも提案してもなかなか難しいとは思いますが、どうなのかということと、あと1つ、3年後か4年後になるのかわからないのですが、国立

の八雲病院もなくなるということで、それに伴って八雲養護学校もたぶんなくなってしまうと思うのですが、今いわゆる支援学級に在籍しているお子さんが小学校中学校多いので、八雲高校の生徒数が減るのであれば、これも色々問題があると思うんですけども高校の養護化って言うんですかね。今、今金高等養護学校などに寮生として行っていますけれども、なかなか今金ももちろん函館の方も希望者が多くて厳しくなっていることやもう今金の方に札幌の方の子どもたちが流れてきていると保護者の方に伺いましたので、是非ということも検討して頂きたいというのが1点と、読書の件はお伺いしたのですが、英語教育について教育長触れられていなかったんですが、社会教育の1番に書かれています、英語助手の方がカナダからアルマさん1名いらっしゃってますよね。これから、4年後の2020年に向けて今小学校5年から課外活動的に本当に英会話みたいな感じに言い方悪いですが遊びみたいにやっている英語が、3・4年に降りてきて5・6年の方が今中学校でやっているような教科書を使った本格的な英語教育が始まります。それは、文科省でもう決まっているんですが、それに準じて今、全国では小学校1年生からALTを入れたりだとか英語教育をやったりだとか公立小学校でも英語教育に力を入れてまして、低年齢化していると思うんですけども、小中一貫を考えた場合、そういう英語指導を、八雲町はまちを歩いていてもすぐに外国人に会うこともないので、ALTやAETが必要なと思うのもありますし、たとえ外国人でなくても英語補助の先生や支援員について、その辺りをどのように考えているか伺いたいと思います。

○教育長 町長。

○町長 教育長。

○教育長 質問の中には、道教委に対する質問もありますので、なかなか町が答えるのは難しいのですが、高校の美術という問題もありました。これは、委員が保護者の声を聞くなどした中での集大成だと思うのですが、仮にどうしても美術を立ち上げるということになれば、先ほど言われた森や長万部と協議を重ねていくしかないのですが、それぞれの高校でほしいものが違えばまたそれは意見が一致しませんので、その辺りの調整は私からも道教委には伝えますけれど、その相互の高校の調整が図れるのだろうかと思ったり、当然そのためには人材も必要になってきますから要望として伝えていきます。

次に高等養護学校が狭き門というのは、私も1年高等養護学校に居ましたけれども、私が居た学校は障がいあまり重くないお子さんたちなので、みんなすごくできました。ですから、滑り止めに普通高校を受けている子が多く、それで道教委の方も高等養護学校が不足ということで何校かたちあげてはいるんですけども、どちらかというと中心地なんですね。そういうこともあります、高等養護学校の在り方については、力を入れていますからおそらく地方にも子どもたちが少なくなった校舎を半分活用してという声も出ていましたし、そういうことを積極的に進めてもらえばいいなと私もそういう思いでいます。

また、子どもたちに対する特別支援教育についても、先ほど言ったような形で充実していくよう努めて参ります。

それからALTの活用ということもお話がありました。小学校で導入された目標は、小さい時から英語を話せるとか英語で何かを伝えるとかそういうことではなくて、あくまでも違和感なく英語に親しむという機会を作りましょうということではほとんどゲームなどの遊びをとおして行っています。遊びに英語を使い、身近に感じていく活用をしていました。それが今度、3年4年という形で降りてきます。そういうことで、小学校教諭の英語教育については、道でも局でも相当力を入れています。そういう場面にALTが入って教員を指導する場面をたくさん設けてあります。そういった研修会には是非積極的に参加してほしいですし、可能であれば今月28日に八雲町の全教員の総会があります。その総会の中で、部会はどうなっているのかまだ把握しておりませんが、英語教育部会などがあれば、そういう部会の先生たちに研修内容や指導者の情報をどんどん流して、何とか今居る小学校の先生の指導力を高めていきたいと思っております。

また、八雲高校の件ですが、先ほど私が八雲はしばらく大丈夫かなと言ったのはだいたい5、6年先までを示します。そういう中では、八雲はまだいじられてはいないということがありました。ただ、入学式に行つてちょっと心配したのは、総合ビジネス科の生徒が少ないということです。これは、全道的にそうなっていて、例えば標茶農業高校、厚岸水産高校などは、すごい設備があります。第一次産業に力を入れるという町の方針もあって標茶高校は、何億もするような機械があり、水産高校にも缶詰にするすごい設備があるんですけども全然生徒が入ってこないようです。そういうものすごい先進的な機械を寝かせておくのはもったいないということで、北大が協力校となって大学の先生が機械を活用し、生徒に指導するというので何とかやっていますが、厚岸水産高校単独ではもうできなくなり、厚岸の普通高校と統合して存続しているということです。ですから、こういう普通科、普通科という形よりもこういう学科も必要ではないかなと思いますし、これはやはり高校側の頑張りにかかっているという気がします。

また、中学校と高校が日常的な連携が図れば、中学校の先生方も子どもたちに対してそういう進路の在り方など指導できると思うので、その辺りも今後十分考えていきたいと考えております。

○町長 八雲高校についてですが、これから魅力ある学校づくりとして、これはまだ自分の頭の中で考えていることですが、今年入学生にも話しましたが八雲高校第1期卒業生の方で、今埼玉県の1万5千人くらいの職員を抱える大病院の会長さんが今年9月に来ます。そういう機会に八雲高校を卒業したということで学校の魅力づくりにつなげたり、あるいは尾張徳川会があるのですが、今までは和合会というくくりがあつてなかなか難しかったんですが、これからは八雲町もそういう東京にいる方や徳川ゆかりの方々だけではありませんが、八雲町出身者で活躍している方々の話を聞くことも魅力づくりの場の1つと考えますし、養護学校については、これから麦の子会が黒岩小の利用に向けて進めていますので、今後発達障がいの方ですね、ここの園長がもともとは熊石の小学校、熊石第一中ということで、大変八雲町熊石地域にゆかりがあるということで力も入れてく

れていますので、特にこの間話した中で不登校の生徒がかなりいるということで、そういうことも含めて八雲地域の方々、発達障がいや障がい者とも触れ合っていたらいいなという話もあるので、これからも話し合いを持ちたいと思っています。

そしてまた英語については、今八雲町は外国人が居ないといいながらこの度2月、3月にインドネシアから落部地域に入ってきました。この方々が大変優秀で、前の方が優秀でないということではありませんが、アジアの中でも大変優秀な子どもたち、特に高校を卒業して19歳、20歳くらいの方々が入ってきたということで、もともとアジアは英語圏でありますので大変その方々と触れ合うのも1つかなと思うのと、ハーベスター八雲の大河原氏の関係で上智大学と、あそこはどちらかという海外色豊かなようですので、その辺りの交流もこれから子どもたちとできればと思いますので、これから皆さんと話し合いながら考えていきたいと思っています。よろしいですか。

○藤内委員 はい。ありがとうございます。

○松永委員 町長。

○町長 松永委員。

○松永委員 今、藤内委員が発言した内容に関連してよろしいでしょうか。

中学校でも美術の先生は、落部中学校にもいないなど、残念ではあるけれどある程度は仕方ないのかなと思うのですが、熊石第一中に体育の先生がいないというのはびっくりしました。ここにも知・徳・体という学力、健康な体や体力づくりということから考えて体育の先生がいないとか、先日学校だよりが送られてきたのを読んで、浜松小学校には養護の先生がいないと書かれていて、その辺りはとても大切なことだと思うのですがどうなんでしょうか。

○教育長 町長。

○町長 教育長。

○教育長 全ての学校に全教科の教員が配置されるというのが一番望ましいのですが、小学校は全教科指導できる免許を持っていますから小学校は良しとしながらも、中学校は生徒の数によって全教科そろえるのは難しいです。どうしても学校の要望としては、国語・数学・理科・社会・英語の五教科がほしいという思いも強いですし、なかなか全教科そろえるのは厳しい状況になっているというのが1つです。

それから浜松小学校の養護教諭配置についてもなされていないと聞きまして、私も局に出向いた際にすぐに次長等と話をしたのですが、渡島管内では0で、森高校にもまだ配置されていないそうです。誰か一人でも見つかったらまず森高校に取られてしまうと思います。それで、今年養護教諭採用になった例えば八雲小学校の先生などに伺う中で、今年受けたけど不採用になった友だちはいないか聞いてもらったり、来月各種総会があって札幌に何度か出張もありますので、道教委の方にもそういう待っている先生、期限付きでもいいので、何とか早いうちに配置できるように努力はしているんですけども、児童が増えたり、学級が増えたりで教員数に変更になることは小規模校ではよくあるんですが、局頼

みではもう無理で誰かコマを持っているとすぐ活用できるということもあるので、何とかそういう人材の名簿を作っていきたいと思っています。

○松永委員 町長。

○町長 松永委員。

○松永委員 浜松小学校は、特別支援のお子さんも多いから尚更養護教諭の配置は必要だと思います。

○教育長 町長。

○町長 教育長。

○教育長 町内で教員免許を持っていて、そういう教育に堪能な方がいらっしゃれば何とか見つかるまでの間、お願いできるかと思っています。

○町長 引き続き、教育長から道教委に養護教諭や体育教員含めて再度要望していただくということでもいいですか。他にありませんか。

○松永委員 町長。

○町長 松永委員。

○松永委員 先ほど宮田委員からもありましたとおり熊石地域の学校が6校から2校になるということが、今年度1番大きなことではないかと思いますが、私が1番心配しているのは熊石地域の南部に1つも学校がなくなることで、熊石第二中・相沼小・泊川小が閉校するのですが、学校がなくなるということは、文化がなくなる、継承してきたものが消えてしまう、ある意味仕方のないことかもしれませんが、とても残念な部分もあるので教育委員会と行政とでバックアップしながら熊石南部地域の子どもたちのケアも含めて、自分たち教育委員も含めて最重点課題としていくべきと思います。

○町長 折戸、館平、相沼を含めて、子どもたちのケアも必要であるし、地域の衰退もかなり大きく影響すると思いますので、学校跡地利用も含め、教育委員会だけではなく、町としても考えていかなければならないと考えます。

○教育長 町長。

○町長 教育長。

○教育長 私もかつて自分の勤めた学校や前のところでも廃校の仕事をしてきたのですが、今松永委員が言ったとおり廃校の後ですね。何とか教育委員会でできることはないかとやったことは、学校の校舎は残っていますから月1、2回夜に出向いて行って、簡単なレクリエーションを行ったり土日のどちらかを使って子どもたちを交えた山菜狩りをやってみたりしてみましたが、全部行政がお膳立てして行うことには無理が来ますからそれを地域の方々が自分たちの力でやってみようという気持ちになってもらえればいいのですが、その辺りの難しさもありました。

○町長 具体的に学校がなくなるということで地域の方とじっくり話をすることも必要ではないかと思っています。

○松永委員 町長。

○町長 松永委員。

○松永委員 規模が大きいですよね。黒岩小学校や大関小学校とはまた違うような大きさですよね。

○町長 実際今までの廃校で言えば、八雲地域の栄浜小、春日小、大関小は日大に譲渡し、黒岩小も今検討中で、廃校になった学校の活用を誰が考えるのかが問題です。

○宮田委員 町長。

○町長 宮田委員。

○宮田委員 それはやはり地域がどうするかという考えがなければならぬと思いますし、その考えがあって初めて町がバックアップできると思います。

○町長 このことを地域の人とどう話し合いを持つべきか。統廃合の話としては進んでいますが、地域の活性化となればそれはもう教育委員会だけの話ではなくなると思います。一度持ち帰って、熊石総合支所も含めて地域の活性化や学校跡地の問題について相談していく必要があると思います。

○宮田委員 町長。

○町長 宮田委員。

○宮田委員 後もう 1 点ですが、落部地域の小中学校の小中一貫を実施していくということですが、その中でプールの問題なんです、今回取壊しの予算計上をしていますが、それに対してある議員から小中一貫教育に影響があるのではないのかというような質問がありました。その後、予算計上していますが、これは承認されたという解釈でいいのでしょうか。それとも再検討しなければならないということなのでしょうか。

○学校教育課長 町長。

○町長 学校教育課長。

○学校教育課長 その件は、落部小学校プールではなく黒岩小学校プールの解体ということです。

○宮田委員 わかりました。

○町長 その他何かありませんか。それでは、その熊石の学校についてスポーツ合宿の誘致等検討できるのか。熊石地域ではなかなか難しいのかもしれないが検討はできないか。

○体育課長 町長。

○町長 体育課長

○体育課長 合宿と言っても内容によりますからどういう施設を使ってどういう種目の人たちが行うのかと考えると厳しいと思います。八雲地域の場合は、整備されたグラウンドがありますからそういうものを活用できるから来てはもらっていますが、ただ学校ということになれば連休などの休みを利用して合宿するということになります。わざわざ廃校になった学校を利用するかとなるとなかなか難しいと思います。

○町長 どこかの企業に貸すことはできないか。

○体育課長 町長。



○町長 体育課長。

○体育課長 希望があればできるでしょうが、今は企業もこちらの方まで来ないというのが現状です。自分たちの会社の近間でやるということが基本のようです。昔のように、お金をかけて遠くに行つてというのはなかなかできないようです。企業も部活の廃止などもありますから、なかなかうまく進まないというのが現状です。そういうこともありまして、今八雲町は学生の合宿を中心とした趣旨となっている現状です。

○町長 その他委員から何かございませんか。

(「なし」の声あり)

○町長 挨拶でも述べましたが、公民館や役場庁舎が古くなっていることから耐震化も含めて今年度あたりから場所や規模についてそろそろ話し合っていかなければならない時期であること、これから総合計画が今年度来年度2年に渡って次の10年の計画がありますので、この辺は盛り込んでいかなければならない事項だと考えておりますので、委員皆さんの意見があれば聞いていきたいと考えています。

また、これは学校教育で使えるかどうかわかりませんが、小学校中学校高校にしてもこれから八雲町も町づくりに対して、新幹線の駅が春日地区にできるとなると子どもたちの思いや意見を聞く場所を作れば町づくりに生かしていきたいという思いもありますので、その辺りも学校で取り組めるものがあるかどうかお願いしたいと思います。

また、これから新教育制度になりましたので、教育委員の皆さんには、行政との連携を密にしていく必要もありますので、この総合教育会議もありますが、会議に限らず、気が付いた時には田中教育長や私のところにこういうことがあるんですが風通しの良い環境にしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

また、各担当課についても何かありましたら我々のところに持ってきていただければと思います。

多くの貴重な意見を頂きましたけれどもこれから総合教育会議だけでなく、皆さんと様々な場面で連携をしながら行政執行に当てていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

#### ◎会議日程5 その他

○町長 それでは日程5その他について発言はありませんか。なければ事務局から連絡があればお願いします。

○学校教育課長 町長。

○町長 学校教育課長。

○学校教育課長 昨年の7月に引き続きまして、2回目の総合教育会議を開催させていただきました。この会議の内容等について、まだまだ手探りで進めている部分もあり、ご意見もあろうかと思いますが、これからは春・夏・秋・冬を目途に年4回程度のペースで開催したいと町長とも話をしているところでございます。いずれにしても八雲町の教育を高め

る充実した会議にしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。私からは以上です。

○町長 今事務局から説明があったとおり年4回、これは定例議会が終わった後のほうが、議員の皆さんの意見もありますので、その辺りも含めて教育委員の皆さんとまた話し合いをしながら年4回ということですのでよろしくお願いいたしますと思いますし、また急に八雲町も教育に関して色々なことが起こることもありますので、その場合はその都度集まって協議をし、良い方向へ話を進めて参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

#### ◎会議日程6 閉会

○町長 それでは、これをもって本日の会議を終了いたします。

【閉会 午前11時20分】